

BICYCLE-E-MOBILITY CITY EXPO 2024

自転車 - 電動モビリティまちづくり博

in 新宿住友ビル 三角広場



主催:BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024実行委員会(運営事務局:株式会社ライジング出版)

開催期日:2024年6月5日(水)~6日(木)





日高機械エンジニアリング株式会社

https://hidaka-machine.com

〒925-0212 石川県羽咋郡志賀町徳田甲の1番地 E-mail: hidaka.himec@gmail.com

[能登半島研究所] 石川県羽咋郡志賀町富来地頭町甲150

Mobile: 090-3150-3091 電話: 0767-37-2132 FAX: 0767-37-1125

自転車 - 電動モビリティまちづくり博

in 新宿住友ビル 三角広場

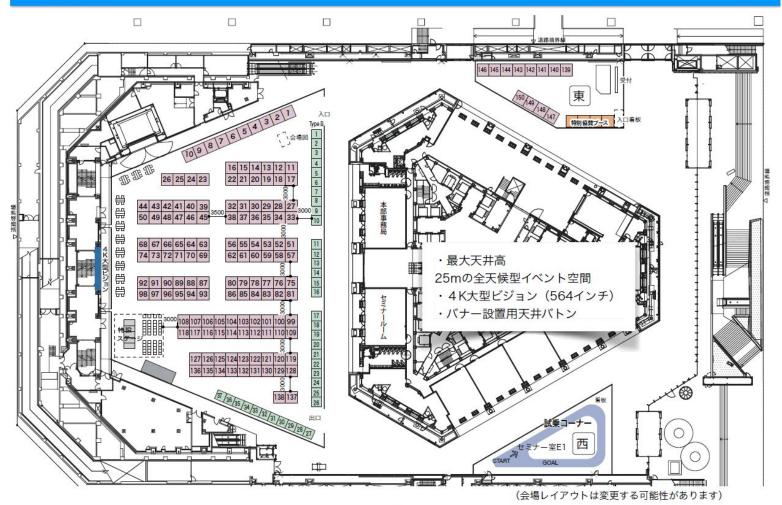
EV、電動バス、 e-BIKE……。 新宿に電動モビリティ 大集結

2024年6月5日(水)・6日(木) 開催

電動モビリティまちづくり博~in 新宿住友ビル 三角広場」(主催: BICYCLE-E·MOBILITY CITY EXPO 2024実行委員会・運営事務局:株式会社ライジン グ出版、後援:自転車活用推進議員連盟/自転車活用推進 本部/国土交通省/経済産業省/スポーツ庁/東京都/ 自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長 の会/全国自転車施策推進自治体連絡協議会/公益財団 法人東京都環境公社(クール・ネット東京)/一般社団法人 自転車協会/一般財団法人自転車産業振興協会/一般財 団法人日本自転車普及協会/一般社団法人全日本実業団 自転車競技連盟/一般社団法人自転車駐車場工業会/ NPO法人自転車活用推進研究会/日本自転車軽自動車商協同組合連合会/東京都自転車商協同組合/一般社団法人日本シェアサイクル協会/一般社団法人CHAdeMO協議会/一般社団法人次世代自動車新興センター/一般社団法人日本自動車車体補修協会、協力:警視庁交通部)が6月5日(水)・6日(木)の両日、東京都新宿区西新宿の新宿住友ビル三角広場(屋内展示場空間)で開催される。

会場にはEV、電動バス、e-BIKE、電動モビリティ、EV 充電機器、駐輪・駐車場関連機器、パーツ・用品が大 集合し、エキサイティングな展示イベントを展開する。

開催場所



-7

For the NEXT STAGE

次世代移動システム の展望

BICYCLE-E·MOBILITY CITY EXPO 2024

~自転車-電動モビリティまちづくり博 ~は、

環境に優しいパーソナルモビリティを活用した交通システム、 まちづくり、地域社会の活性化を推進する展示会です。

「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博~」は、2024年で9年目の開催となる展示イベントです。主要テーマは自転車から電気自動車、電動ミニカー、電動スクーターなど環境に優しいパーソナルモビリティの普及、活用、及びそれらのモビリティを活用したまちづくり、安全で機能的な移動システムの構築を目指すというものです。

現在、モビリティ、そしてモビリティを取り巻く社会環境は大きな変革期を迎えており、とりわけ脱炭素、脱ガソリン、カーボンニュートラルを視野に入れた電動モビリティの普及は急速な広がりを見せております。地球環境問題を背景としてモビリティのEVシフト、電動シフトが加速していくことは必至と言えるでしょう。本展示会はそうした社会情勢を踏まえた新たな電動モビリティ、移動システム、利用環境発表の場であり、日本国内外に向けてのオピニオン発信基地でもあります。

「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博~」は、安全で利便性の高い交通社会、健康的で地球環境に優しい地域社会の発展を目指す未来都市創造に貢献する展示会としてさらなる前進を続けてまいります。

自然光溢れる大イベント空間「新宿住友ビル三角広場」で開催する EV・電動モビリティを活用した未来志向の"まちづくり"博

脱炭素・カーボンニュートラルをベースとしたまちづくりは世界の潮流であり、SDGsを視野に入れた環境未来都市の創造は私達が推進すべき不変のテーマと言えるでしょう。地球環境に優しい移動システムの構築は世界の主要先進都市が取り組んでいる優先的課題であり、新たな地平を切り拓くモビリティ変革の流れが加速していくことは必至です。

「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博~」は上記のテーマを真摯に掘り下げ、モビリティの先進機能に焦点を合わせるとともに安全で利便性の高い移動システム、地球環境に配慮したハイテク交通システムの構築を推進する展示会です。

毎年、本展示会の展示会場にはEV・電気自動車、電動ミニカー、電動スクーター、電動アシスト自転車など多彩な脱ガソリン・電気 仕掛けの注目製品等が展示されますが、それらのパーソナルモビリティを地域社会の状況に合わせて機能的・複合的・効果的に活用す ることがまちづくりの進化にとって必要不可欠条件と言えるはずです。そして、それを可能にするためにEV充電インフラの拡充、高機 能駐輪場・駐車場の整備、高度化した走行路の確立など私達が取り組まねばならない課題は少なくありません。

「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博~」は、それらの課題と真摯に向き合い、出展者、来場者の皆様をはじめとする多くの人達とともに次世代交通システム、環境未来都市の理想像を探ってまいります。新時代の賑わいを創出する巨大ビジネスシティ・西新宿は「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博~」のテーマを追求するに相応しい展示会場です。スケールアップする本展示会にご期待ください。

開催概要

◆ 名 称 : BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024 ~自転車・電動モビリティまちづくり博~

◆ 開催日時: 2024年6月5日(水) 10:00~17:00

6月6日 (木) 10:00~17:00

設営: 6月4日(火) 8:00~20:00(予定) 撤去: 6月6日(木) 17:00~21:00(予定)

◆ 会 場 : 新宿住友ビル三角広場 (屋内イベント空間)

(東京都新宿区西新宿2丁目6番1号)

https://office-b.sumitomo-rd.co.jp/sankakuhiroba/

◆集客目標: 5,000人/日 合計10,000人超



◆出展・集客対象:全国の自治体、デベロッパー、駐輪場・駐車場関連業者、自動車・自転車販売店、自転車・EV関連業者、自動車利用者、 サイクリスト、EV愛用者、道路・建築関連業者、物流関連業者、情報・通信関連企業、防犯・セキュリティ関連業者、スポーツ・健康関連企業、鉄道・交通関連企業、商業施設・公共施設・オフィスビル・学校関係者、商店街関係者、食品デリバリー関連業者、各種団体関係者、海外の自転車・EV業界関係者、etc

◆ 主 催 : BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024 実行委員会(運営事務局:株式会社ライジング出版)

◆ 後 援 : 自転車活用推進議員連盟、自転車活用推進本部、国土交通省、経済産業省、スポーツ庁、東京都、自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会、一般社団法人自転車協会、一般財団法人自転車産業振興協会、一般財団法人日本自転車音及協会、一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟、一般社団法人自転車駐車場工業会、NPO法人自転車活用推進研究会、日本自転車軽自動車商協同組合連合会、東京都自転車商協同組合、一般社団法人日本シェアサイクル協会、全国自転車施策推進自治体連絡協議会、公益財団法人東京都環境公社(クール・ネット東京)、一般社団法人CHAdeMO協議会、一般社団法人日本自動車車体補修協会、一般社団法人次世代自動車振興センター

◆協力 : 警視庁交通部 (予定)



開催内容

最新鋭の自転車・電動モビリティ・電気自動車・EV充電機器の展示、新型駐輪・駐車場システム、安全で機能的なモビリティ走行空間の整備拡充、MaaS、モビリティブレンド、中央官庁・地方自治体の交通政策、研究者・ジャーナリストらによるパネルディスカッションなど充実した開催内容。魅力的な電動モビリティワールドを創造・推進していくための提案が満載です!



























































人の移動、物流を活性化させる 次世代モビリティ大展望

来る6月5日(水)・6日(木)の両日、東京・西新宿 で開催される「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり 博~in 新宿住友ビル三角広場 | には電気自動車、電 気バス、電動二輪・三輪車、電動アシスト自転車、電 動キックボード、及びEV 充電インフラ機器、駐輪・ 駐車場関連機器、パーツ・用品など時代を牽引する 新型モビリティとインフラ系の最新鋭機器・部品・用

品が集結する。

同展示会はまさに未来志向の移動・交通システム、 次世代まちづくりを展望するエキサイティングなイ ベントだ。

[BICYCLE-E · MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博」は最 新鋭機器の視察とともに示唆に富んだ論客の意見を 聴取できるエキサイティングショーで、主要テーマ は下記のとおりだ。

- ●時代を牽引する電気自動車、電動モビリティの特長は?
- ●人の暮らしを便利に、快適にする電気バス、物流車の注目点は? ●モビリティ革命によって移動手段、交通システムはどのように変貌していくのか?
- ●EV充電機器、蓄電システム、V2X、V2Hの注目モデル、最新情報は?
- ●駐輪・駐車システムの最新鋭機器、最新システムの商品ライジアジプロ
- ●自動運転の進化と本格導入への展望は?
- ●新型モビリティを活用したライフスタイルの選択肢は?
- ●人の"つながり"を推進し、経済活性化をうながす移動手段とは?
- ●モビリティと防災システムのあるべき姿、備えのポイントは?
- ●モビリティをブレンド、ミックスした移動手段とは?
- ●人口減少が進むローカル地区交通システムの有り様とは?
- ●カーボンニュートラルをバックボーンとするモビリティを活用したまちづくり、目指すべき方向性は?



次世代*まちづくり、のカギを握る EV充電インフラと 最新駐輪・駐車場システム



マイクロモビリティ [CiKoMa](本田技研工業)



電気小型パス [e-JEST](アルテック)



「Smart Bus」(アセンブルポイント)



電動アシスト三輪車「多目的 e-Cargo」(椿本チエイン)

"移動"の安全性・利便性向上が 人と街を元気にする!

100年に1度と言われるモビリティ変革の時代。世 界各地では最新テクノロジーを駆使した高機能モビ リティ、利便性の高い最新鋭機種、個性あふれるニュ ーモデル、安全と快適性を追求した個性派商品が 次々と誕生している。

[BICYCLE-E · MOBILITY CITY EXPO

2024~自転車・電動モビリティまちづくり博」には、 そんな注目すべき話題の新製品・新システムが集結 し、各社のプースで展示されるのだ。NHK朝ドラの 「プギウギ」ではないが、まさにウキウキ、ズキズキ、 ワクワクなのだ!

"電動"、そして"カーポンニュートラル"をコンセ



水陸両用車「ARGO」 (サポートマーケティングサービス)



(モータリスト)

プトにしたEV系のパス、四輪、三輪、二輪、自転車、 キックポードなどの最新モビリティ、パーツ・用品、さ らにはEV 充電器、駐輪・駐車関連のインフラ系機器 が一堂に集まる展示会。それが「BICYCLE-E・ MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モ ビリティまちづくり博」の大きな特長、セールスポイ ントだ。

楽しく、気分よく最新モビリティとインフラ系機器 を見学し、未来志向のまちづくりに関する最新情報 を獲得する。「BICYCLE-E-MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博」 は、楽しみながらビジネス上の貴重な情報が獲得で きる展示会だ。

昨年はNHKテレビ「おはよう日本」で本展示会の 模様が放映されるなど、マスコミの評価、注目度も



年々急上昇。一段とスケールアップしたかたちで開催される BICYCLE-F-MOBILITY CITY EXPO 2024~自転車・電動モビリティまちづくり博力は、例年にも増して熱い注目の中で開催される。
(製品写真は展示会で出品が予定されている商品)

EV 充電器 [Pit-2G] (日東工業)



充電ステーション& 蓄電池









Energy Storage Cabinets



CSCS 1.0



CSCS 2.0



Invertor Products

資本□約400億円 従業員4900□

Smart City with Starcharge







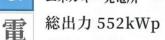




EMSで庁舎の防災機能を強靭化する。

これからの庁舎は、環境に優しい電力を使用し、災害時には人命と地域社会を守る強靭さが求められています。

再生可能 エネルギー発電所



耐震クラスSの架台に 支えられた太陽光パネル

太陽光発電バネル 1,200 枚が総出力 552kWp の

また、施設面積の有効活用と庁舎利用者の利便性 を優先し、カーボート型架台を採用しています。

発電効率の高い太陽光パネルを使用 カーボート型架台の基礎部分



耐震クラスSに適合した、鋼材・ コンクリートを使用しています。

カーボート型架台

のパランスを重視した アザインを採用しています。

制御・蓄電池室

耐震クラス S 構造で、EMS 制御 機器等、重要機器を守ります。

IF蓄電池室

バッテリー容量 3,456kWh





長寿命化した鉛蓄電池 1,728 個 鉛蓄電池 (2V) 使用しています。

重要機器が稼働する2階建て建物。

2F 制御管理室



気象観測装置 気象情報をリアル タイムで計測し、

DC/ACインパーター400kW PV コントローラー 400kW

電圧変換・充放電等、 負荷への送電を制御します。

自営線設備



Energy Management System

自営送電設備を新設し、庁舎 及び避難施設へ、電力供給を 行います。

> 高圧・低圧・通信線 を配線しています。







〒925-0212 石川県羽咋郡志賀町徳田甲の1番地 [能登半島研究所] 石川県羽咋郡志賀町富来地頭町甲150

Mobile: 090-3150-3091 電話: 0767-37-2132 FAX: 0767-37-1125

E-mail: hidaka.himec@gmail.com

CO2の削減

従来の電源使用によって庁舎から排出される 年間 CO2 排出量の

約93%を削減

災害時

発電できない時も、 電力供給が可能。





急な災害発生に備え、災害用に一定の電力を充電し、災害時に必要な電力を、 EMS の制御によって、72 時間安定して電力を供給を行います。

庁舎内 各フロアの重要設備へ供給 特定負荷

3F 2F 例) 災害対策室・サーバー室・照明

コンセント等。

(非常電源回路)の特定負荷に優先的に72 時間供給し、残りの電力で特定負荷以外の照明 ・空調を稼働させることが可能です。

避難施設へ 電力を供給 します。



省エネ・空調設備への

再生可能エネルギーの発電負荷 を軽減する為、庁舎内は LED 照明等に更新されています。

Constracture

主なメリット

EMSを導入するメリットと特徴

- 再生可能エネルギーで電気を創出、使用することで大幅な CO2 削減 ができる。(年間 361.14t-CO2 削減)
- 商用電源に頼らず、災害時72時間分の自主電力を確保できる。

事業概要

本事業は、環境省の補助事業を活用しています

■ 補助事業名称

環境省

地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する避難施設等への 自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業

感染症対策を推進しつつ災害・停電時にも避難施設等へのエネルギー供給 が可能な再生可能エネルギー設備等への導入支援。

事業内容

令和3年度 小城市庁舎防災機能強靭化事業

佐賀県小城市三日月町長神田 2312 番地 2 2021年9月22日 ~ 2022年2月22日

パワーコンディショナー

552kWp(太陽光発電パネル (460Wp)×1,200 枚)

500kW(100kW×5台)

カーポート架台

3,456kWh(鉛蓄電池(2kW)×1,728個)

鉄骨造 2 階建て 延床面積 207.36 m

室外機 26台 室内機 178台 ■LED 照明設備 1.537台

線設備 一式(三日月保健福祉センター「ゆめりあ」との送受電線) 九電工・中島・石橋共同企業体

■ 設計監理・施工業者

代表者 株式会社九雷工

株式会社中島工務店 / 株式会社石橋建築事務所

補助金申請支援業者 国際航業株式会社

庁舎防災機能強靭化。

それは、

命を最優先に、

地域のこれからと、これまでを守ること。

小城市庁舎 防災機能 強靭化事業 Off-Grid Energy Management System











日高機械エンジニアリング株式会社

〒925-0212 石川県羽咋郡志賀町徳田甲の1番地 [能登半島研究所] 石川県羽咋郡志賀町富来地頭町甲150 Mobile:090-3150-3091 電話:0767-37-2132 FAX:0767-37-1125

事業概要

本事業は、環境省の補助事業を活用しています

補助事業名称

環境省

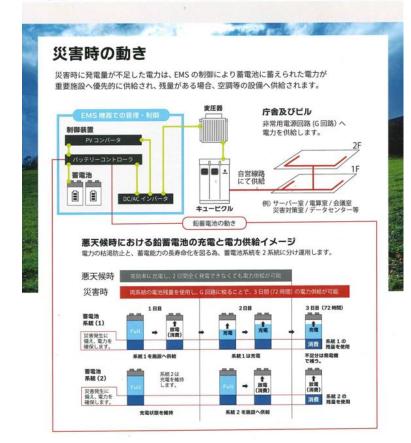
地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する避難施設等への 自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業

感染症対策を推進しつつ災害・停雷時にも避難施設等へのエネルギー供給 が可能な再生可能エネルギー設備等への導入支援。



災害時の電力供給

最大 72 時間の電力供給を可能にします。



再生可能エネルギー発電所



発電効率の良い太陽光パネルを採用 し、敷地面積の有効活用を図る為、 カーポート型の架台の採用をお勧め しております。

蓄電室



平常時に使用する電力に加え、 災害時に必要な電力を確保す る為、蓄電池を格納する設備 が必要になります。

1

制御・管理機器



バッテリーコントローラー、 PV コントローラー、 DC/AC インパーターの制御機器 により、蓄電池への充放電をコ ントロールを行います。

L EMS 制御機器



常駐せずに、自動で 24 時間 365 日連 隔監視を行うことでコストを削減しな がら、システムを最適な状態で管理し ます。

5 管理モニター



リアルタイムで発電、蓄電状況を 表示します

人 気象観測装置



気象情報をリアルタイムで計測し、 EMS に送信します。

7 変圧器・キュービクル



電圧変換・充放電等、 負荷への送電を制御します。

8 自営線路



自営送電設備を新設し、庁舎及び 避難施設へ、電力供給を行います。

9 省エネ空調・ LED 照明



再生可能エネルギーの発電負荷を 軽減する為、LED 照明等に更新が 必要です。



Hardware - Smart Charging and Smart Energy







"働くEV"は世の中のライフスタイルを変革する

↑働く、EVとは、

人間が、生き生きと働く、ことを 可能にするEVだ。

変革の時代である。変化、進化、 再生の時代とも言えるだろう。モ ビリティワールドは大革新の時代 に直面し、激動の中で新たな進む べき方向を模索中だ。

テクノロジーの進化の中で今、 モビリティは試行錯誤の時代に 入っているとも言えようが、早晩、 これまで経験していない新時代の 交通システム、新たな移動手段の

いだろう。近い将来、私達はニュー モビリティを駆使した安全で利便 性の高いライフスタイルを構築し ていくことになるはずだ。

本誌はそんなコンセプトを前提 として、「特集:働くEV 大変革期 を迎えたバス・物流モビリティ ワールド」を組むことにした。

ひとくちにEVと言っても多種 多彩だ。普通乗用車だけでも日常

系モデルまで多岐にわたっており、 フォーミュラEといった最先鋭車 両まで登場するようになった。4 輪だけでなく、3輪、2輪まで加え ると電動モビリティの対象車種は 一気に拡がるが、本特集が取り上 げさせていただいたのは日常生活 に密着した車両、あるいはビジネ スユースモデルで、それらの車両 を活用した移動・物流システムに 創出にたどりつくことは間違いな ユースモデルからSUV、スポーツ 対する考察と展望を主要テーマと



アセンブルポイントのEVミニバス「Smart Bus」

して定めることにした。

世の中には大小さまざまなEV 物流車両、EVバスが登場してお り、実用に即した軽EVも市場を にぎわしている。

それらの。働く。EVの注目モデ ルに焦点を当て、*元気印。のEV が私達の生活とどのように関わ り、まちづくりに貢献していくのとは論を待たない。

かを展望するのが本特集の狙い である。

EVによって人の暮らしは利便 性が増す。便利になる。電力生産 に伴うCO。の排出という課題は あるものの、脱ガソリン、カー ポンニュートラルにシフトした交 通システムが地球環境に優しいこ

が、穏じてEVへの流れがさらに 勢いを増し、本格化していくこと は間違いないだろう。大事なのは、 忘れてならないのはEVが人間を 活かす、人間を元気にする、人の 移動を活性化させる乗り物である

解決すべき問題は少なくない

HW ELECTRO®

EV物流車「ELEMOダンプ」

という考え方、未来志向のコンセ プトだ。 °働く。EVとは、人間が°生き生

きと働く。ことを可能にするEVと いうことなのである。



TOUR DE NOTO 400











スポーツサイクル振興に燃える石川県

全日本TT、内灘ロード、ツール・ド・のと、 宝達山ヒルクライム、2020年インターハイを招致

石川県自転車競技連盟は日高明広会 長のリーダーシップよろしく、硬軟取 り混ぜた自転車レースの開催に熱心だ。 30有余年の歴史を持つ9月のツール・ ド・のと、6月の内灘ロードレースはサ イクリストに広く知られるところだが、 今年は6月17日に志賀町で全日本選手 権TTロードレースを開催し、注目を 集めるところとなった。10月の宝達山 ヒルクライムも人気上昇中のアットホー ムな大会だ。

2020年夏には志賀町でインターハイ ロードレースを開催し、来年はそのブ レ大会も実施するという。

石川県スポーツサイクルゆかりの地 などをカメラレポートする。



は9月22日から同24日までの 3日間にわたって開催される



者、高校生の選手達。 -体感のある仲間意 識が石川県スポーツ サイクルを支える原 動力だ





「選手、地元の人に好評でした。うれしいこと

2018全日本選手権TTロードレース開催に注力した 志賀町教育委員会生涯学習課 大家英明参事に聞く

窪木一茂(男子エリート)、與那嶺恵理(女子エリート)が 優勝した今年の全日本選手権タイムトライアルロードレー ス大会は石川県羽咋郡志賀町を舞台として開催された。同 町で全日本クラスの自転車レースが開催されるのは初めて のことだったが、コース設営から運営面など総体的な評価 は高いものがあった。

2020年には志賀町でインターハイロードレースも実施さ れるという。スポーツサイクルに理解の深い地方自治体の 存在はうれしい限りだ。2018年全日本TTを支えた町の担 当責任者である大家英明参事にインタビューした。



志賀町教育委員会生涯学習課の大家草田会事

2020年インターハイロード レースも志賀町で開催

一全日本選手権タイムトライア ルロードレース大会が6月17 日、志賀町を舞台に開催された わけですが、地元の担当責任者 として何かとご苦労も多かった のでは?

「2年前に宇都宮市のジャパ ンカップを視察するなどしてそ れなりに準備は進めてきたので すが、正式にゴーサインが出て から石川県自転車競技連盟との

連係強化、道路の使 用申請、コース整備、 地元町民とのコンセ ンサスづくりなどや るべきこと、やらね ばならないことが多 かったので、それな りに大変なことはあ りました。しかし、お 陰様で選手の皆さん に力を出し切ってい ただき、事故もなく、 地元の人達にも楽し

んでいただいたようなのでうれ しく思います。

―世界の潮流を踏まえたい

ースだという評価ですね。

「私達は自転車のレース しては素人なので自転車競 盟の皆様にはお世話になり た。町としてもいい経験を せていただきましたので:

開催する時は今年のキャリアを 活かしてもっと納得のいく大会 に仕上げていくつもりです。準 備期間を充分に取り、広報体制 を整えて大会にのぞみたいと思

います」

れしいです。若い選手が一 命に走るレースなので我 ても万全の体制で大会の準備を

させていただきます。来年、イ ンターハイのプレ大会員

> ますのも安 じめとして インターハ 迎えたいか 志賀町は今 ポーツ、観光 くりに力を の活性化を いきたいと 自転車のロ ス開催も大 クターだと

> > ます」







NEWS

NEW



募集要項



ツール・ド・のと400

「ツール・ド・のと400」は、能登半島の振興を 目的とし、平成元年(1989年)に第1回大会を 開催して以来、今回が第32回大会となります。 自然暑観に恵まれ、起伏に富んだ能登半島の海岸 線を3日間で一周するサイクリング大会です。総 距離が400キロメートルを超えることから、『ツ ール・ド・のと400』の大会名のもと、国内最長 級の大会として全国から多くのサイクリストが挑 んでいます。 あくまでも交通規則、大会規則を守 りながら完走を目指すサイクリング大会ですが、 3日間とも「出走制限時間制」が設けられ、設定 時間内での走行が求められています。

大会概要を見る



大会レポート



公益財団法人 日本自転車競技連盟 -般財団法人 石川県自転車競技連盟

会長(代表理事)

携带 090-3150-3091 hidaka.himec@gmail.com



石川県立自転車競技場

〒920-0264 石川県河北郡内灘町宮坂に 460 TEL 076-286-1533 FAX 076-286-1544









ISHIKAWA CYCLING FEDERATION

Akihiro Hidaka Chairman

HP.011 (+) -81-90-3150-3091 hidaka.himec@gmail.com



Ni-460.Miyasaka, Uchinada-machi, Kahoku-gun Ishikawa,920-0264 Japan

日高機械エンジニアリング株式会社

〒925-0212 石川県羽咋郡志賀町徳田甲の1番地 [能登半島研究所] 石川県羽咋郡志賀町富来地頭町甲150 Mobile:090-3150-3091 電話:0767-37-2132 FAX:0767-37-1125



Q&A



18日本学校の表示である TOUR DE NOTO 400 コース図 第35回 ツール・ド・のと400 TOUR DE NOTO 400 コース図

●主力 → 対点的水がボー → 力製CP & 空会 → 物理会が影り → 門並CP → 中端トンスルデ針分級 → 報告 (136.9cm)





